

平成30年度 学校経営方針

板橋区立高島第二中学校

校長 香積 信明

1 教育目標

○健康で たくましく生きる

○自ら学び 創造する

○心豊かに 互いに尊重する

【校訓】 自立・継続

「世界の人々の幸せを願い、主体性をもって生きる人になる」

☆教育目標を達成するため、幼稚園・小学校との連携・一貫教育を推進し、学校生活と授業の充実を図る。
また地域の教育力を活用し、自らを生かし、伸ばす努力を継続する生徒を育てる。

また、あらゆる場面で丁寧な対応を行っていく。

2 目指す子ども像など

学びのエリアでの目指す子ども像

・生活や授業のきまりが守れる子

・よく考え粘り強く学習に取り組む子

高島二中の目指す生徒像・学校像・教職員像

生徒像 「心のこもった挨拶をし、何事にも真剣に取り組む姿が光る生徒」

学校像 「生徒が安心して通える、居心地の良い学校」

教職員像 「教育公務員としての自覚をもち、絶えず研修・研鑽に努める教職員」

3 今年度の取組目標と方策

	教育活動の目標	目標達成の方策
学 習 指 導	<p>○授業における教師と生徒の信頼関係を築き、授業に対しては、高い意欲、良い態度で臨ませる</p> <p>○授業スタンダードに基づいた授業を行い、生徒の学習意欲と学力の向上を図る</p> <p>○授業中の規律とマナーを身に付ける</p> <p>○意欲的に学ぶ姿勢をはぐくむ</p> <p>○授業の質の向上を目指し、基礎学力向上を図る</p> <p>○授業評価を生かし、意欲を高める授業づくりに努める</p> <p>○学習活動全体の計画の中に補習を</p>	<p>・小中学校の教員の共通理解・共通実践の基に、基本的な授業の規律とマナー、学習習慣の定着を図る。</p> <p>・課題意識、定着化、個への配慮などを明確にして計画的に授業を行う。表現力を高めるための工夫した授業を行う。</p> <p>・毎時間「ねらい」を明示し、個での学習・グループでの学習を取り入れ、言語能力の向上を図る。</p> <p>・課題解決の時間をとり、また他者の考えと比べより良い考えを作り出させる。</p> <p>・授業の終わりに、学習内容を振り返らせ、それを確かめさせる。</p> <p>・土曜授業を8回実施し、授業の様子を広く公開する。</p> <p>・50分の授業を基本とし、十分な授業時数を確保する。</p> <p>・各種検定試験を実施し、進路指導に役立てるとともに、生徒のチャレンジ精神をはぐくむ。</p> <p>・各教科及び道徳・学級活動で協働学習の手法を活用する。班学</p>

	<p>位置づけ、有効活用を図る ○家庭学習の定着を図る</p> <p>○授業の質を向上するための、校内研修を推進する。</p>	<p>習を通じて、考える力、コミュニケーション能力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着に向け、宿題及び自発的家庭学習の習慣付けの手法について、小中学校が連携して取り組む。 ・「家庭学習の手引き」を配付し家庭との連携を図る。 ・日常の学校・家庭での学習活動と夏季補習との関連を図る。 ・朝読書を通じ、集中力と読解力を養う。読んだ作品から自分の考えをまとめ書き表す力を養う。 ・生徒による授業評価を行い、課題・達成状況を把握し、教師自ら授業を振り返り、教師相互に学んでいく。 ・学力向上調査結果や、生徒・保護者の授業アンケート等を活用し、指導方法や教材の工夫改善に努め、学力の向上を図る。 ・ICT機器整備に備え、効果的に機器を活用し、学力の定着を図る授業の実現に向けての研究を行う。 ・数学における習熟度別少人数指導を実施する。 ・評価基準を明確にし、説明責任を果たす。 ・教科指導において小グループを作り、授業研究に努める。 ・年2回以上の研究授業を全員が行い、授業の質を向上させる。
生活指導	<p>○基本的な生活習慣を確立させ、ルールや時間を守り、身だしなみにも気を遣うなど、社会常識を身に付けさせる</p> <p>○けじめと規律ある生活を送るための指導を重視する</p> <p>○いじめ、不登校、問題行動に速やかに対応する</p> <p>○互いの人格を尊重し、規範意識や思いやりの心を大切にさせる</p> <p>○校内環境、教室環境を整備し、落ち着いた学校環境を整備する</p> <p>○奉仕活動を通じ、奉仕の心、社会性を育成する</p> <p>○生徒の心に迫り、具体的行動の変容を促す指導を充実する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が統一のとれた生活指導ができるように、生活指導についての共通理解を図り、情報交換を密にする。また、必要な報告・連絡・相談を確実に行う。 ・生活指導部会、校内医院会から発信される情報を共有する。 ・個人、学級、学年を問わず、全職員が協力し、早期の発見・早期解決に努める。 ・いじめ、不登校、問題傾向の早期発見に努め、放任不可の原則をもって迅速で組織的な対応を行うため、アンケートの活用などを推進する。 ・学校行事、学年行事、宿泊行事、奉仕活動を通じ、集団生活の在り方を考え、社会性をはぐくんでいく。 ・毎日の教室環境の確認、日頃からの校内環境、教室掲示・美化等に配慮し、教育的環境を向上させ、落ち着いて学習できる環境を整える。 ・朝の校門指導、朝礼・集会等での服装点検や日常の校内での挨拶、服装指導、授業における指導を充実する。 ・奉仕活動に積極的に取り組む姿勢を育て、奉仕の精神や自己有用感をはぐくむ。 ・教員と養護教諭とスクールカウンセラーの連携を教育相談的な手法の活用、情報の共有、共通実践を図る。
道徳	<p>○31年度からの教科化を踏まえ、「道徳」の授業の充実を図る。</p> <p>○学習指導要領に沿った年間指導計画に基づき、各教科等での意図的指導も充実させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要としての道徳の時間を重視し、時間確保を行う。 ・年間指導計画に基づき、価値の内容に応じた資料を生かした授業を行うとともに、全教育活動を通じて道徳的实践力を養う。 ・協働学習の手法を通じて、自他の意見を尊重する態度を育む。 ・学校生活に関連付け、適時、必要な内容・身近な問題について

	<p>○校内外の生活、授業や、行事に臨む姿勢等、学校生活に関連付ける</p> <p>○生き方について考える。</p>	<p>取り扱う。</p>
特別活動・部活動	<p>○学級、生徒会活動を通して、考える力を高め、自主的な活動、責任感や役割意識を高める場を増やす</p> <p>○目標を明確にした学校行事を立案・実施する</p> <p>○部活動を充実させ、学習意欲を高め、責任感、連帯感の涵養に資する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会活動を充実させ、自己の役割を果たす場を多く設定し、生徒の個性や能力を最大限伸ばし、自信や有用感につなげる。 ・考えることを中心とした学級活動を実践する。 ・委員会を増やし生徒が活躍する場面を多くし、自己有用感を育む。 ・目標設定や役割設定を工夫し、成長に気づけるような行事の原案を作成し、ねらいを意識した指導を行う。 ・部活動への参加を勧め、自己を伸ばす場とさせる。 ・社会の一員としての自覚や責任感を育成するため、ボランティア活動や社会体験活動を充実させ、生徒が地域社会に積極的に貢献する活動を推進する。
進路指導	<p>○キャリア教育の観点で計画的な指導を行う</p> <p>○自己理解を深め、学力向上を図り、自らの進路を考える力を養い、希望の進路を実現できるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に研究して、区のカリキュラムに基づく指導を行う。 ・社会人として育つ基礎づくりを行うため、職場体験など、地域との連携を一層深め、報告会まで見通した計画で実施する。 ・教科、学級活動、総合的な学習の時間等においても、キャリア教育の観点を確認する。 ・社会に求められる力を身に付けられるよう、学習指導や生活指導との関連を図っていく。
健康体力	<p>○全都的取組である体力向上を受け、将来にわたり心身ともに健康で、体力の維持向上を図れるようにする</p> <p>○「オリンピック・パラリンピック教育推進重点校」の指定を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣（早寝、早起き、朝ご飯）の一層の定着を図る。 ・昼休みの活用を継続するなど、体力向上に、計画的・継続的に取り組むとともに、小学校との連携をさらに深める。 ・持久力の向上を図る ・全教科でオリンピック・パラリンピック教育を行う。 ・パラリンピック教育を体験を通して推進する。 ・オリンピックを派遣してもらい、オリンピック・パラリンピック教育の意識を高める。
連携・特別支援教育	<p>○地域や諸団体との連携を充実・定着させ、生徒の参加を一層増加させる</p> <p>○学校支援本部との連携を進め、学習環境をさらに整える</p> <p>○配慮を要する生徒の情報交換に努め、継続的、組織的な対応を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続・小中一貫教育の計画を進めるため、交流活動、教科の接続等に努め、定着させる。言語活動の充実及び体力向上に重点を置いて取り組む。 ・小中学校共通の生活習慣、学習習慣定着の取組を図る。 ・地域行事に参加し、協力関係を築き、教育の場を拡大する。 ・PTA との連携を強化し、大人が積極的に生徒にかかわり、生徒が参加した充実感を味わえるような奉仕活動の場を提供し、心の教育を推進する。 ・特別支援教室「けやき」の指導の充実を図るとともに、校内研修等を通じて通常の学級の生徒の指導にも、特別支援の手法を積極的に取り入れ、教育効果を図る。 ・スクールカウンセラーによる教育相談を活用し、学校全体の教育相談体制を整備する。

	<p>○不登校生徒を無くすために、組織的に適切な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SCと連携を深め、コーディネーターを中心に校内委員会を機能させ、全教職員が研修に励みその成果を活かす。 ・欠席3日で電話連絡、1週間で家庭訪問を基本とし、家庭との連携を図る。 ・別室登校など復帰に向けた配慮を行う。 ・SSWや教育支援センターなどと連携し、不登校生徒の家庭への支援を進める。 ・「学校と家庭の連携推進事業」を活用し、支援員による家庭訪問・電話連絡、アドバイザーによる指導等を生かし、不登校の解消に努める
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>○組織的な学校運営を行い、学校としての調和を図る</p> <p>○互いに支え合い、サポートし合える学校組織を形成する</p> <p>○地震・事故等の対応策をより実効あるものにする</p> <p>○個々人のコンプライアンス意識を高め、適切な文書・情報・会計管理、予算執行とともに、コスト感覚をもつ</p> <p>○職種等の違いを相互に理解し、協働するとともに、互いの健康等にも気遣い合う</p> <p>○サービスの厳正に努める意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営参加意欲をもって、校務を正確かつ積極的に処理する。 ・授業や生活指導のスキルを教員相互に学び合い、学校全体の教育力を高めていく。 ・企画会、学年会、各種部会等を活用し、互いの課題意識や悩みを共有し、相互にサポートし合える組織集団を形成する。 ・主幹教諭・企画委員会を中心に課題を明確にし、課題解決のための具体的実践を推進できる組織づくりを推進する。 ・迅速な対応、練った計画での検討・決裁を定着させることによってOJTを推進させる。 ・連絡網等の確認、保護者会の充実、学校だよりやホームページの活用等を通して、家庭との連携理解を深める。 ・規則・原則等に則った職務遂行の意識を高め、自らの責任を果たすとともに、常に学校としての自己点検・自己改善に務める。 ・校内の気持ち良い雰囲気づくりだけでなく、来客等への接遇にも、暖かさ、スピード感をもって当たる。 ・執務環境の整備を意識し、整理整頓を一層進める。 ・「人権教育プログラム」等を活用し、人権意識・人権感覚を高め、教育公務員としての言動を正す。 ・「使命を全うする」「ふくむニュースレター」などを活用し、サービス事故防止研修、各種情報の提示などをより進め、サービス事故の根絶を図る。+